
toiee LabのLove Learning English講座

英語を学ぶこと自体を好きになって、独学する力を手にいれよう

バージョン 1.0 - 2016年11月15日

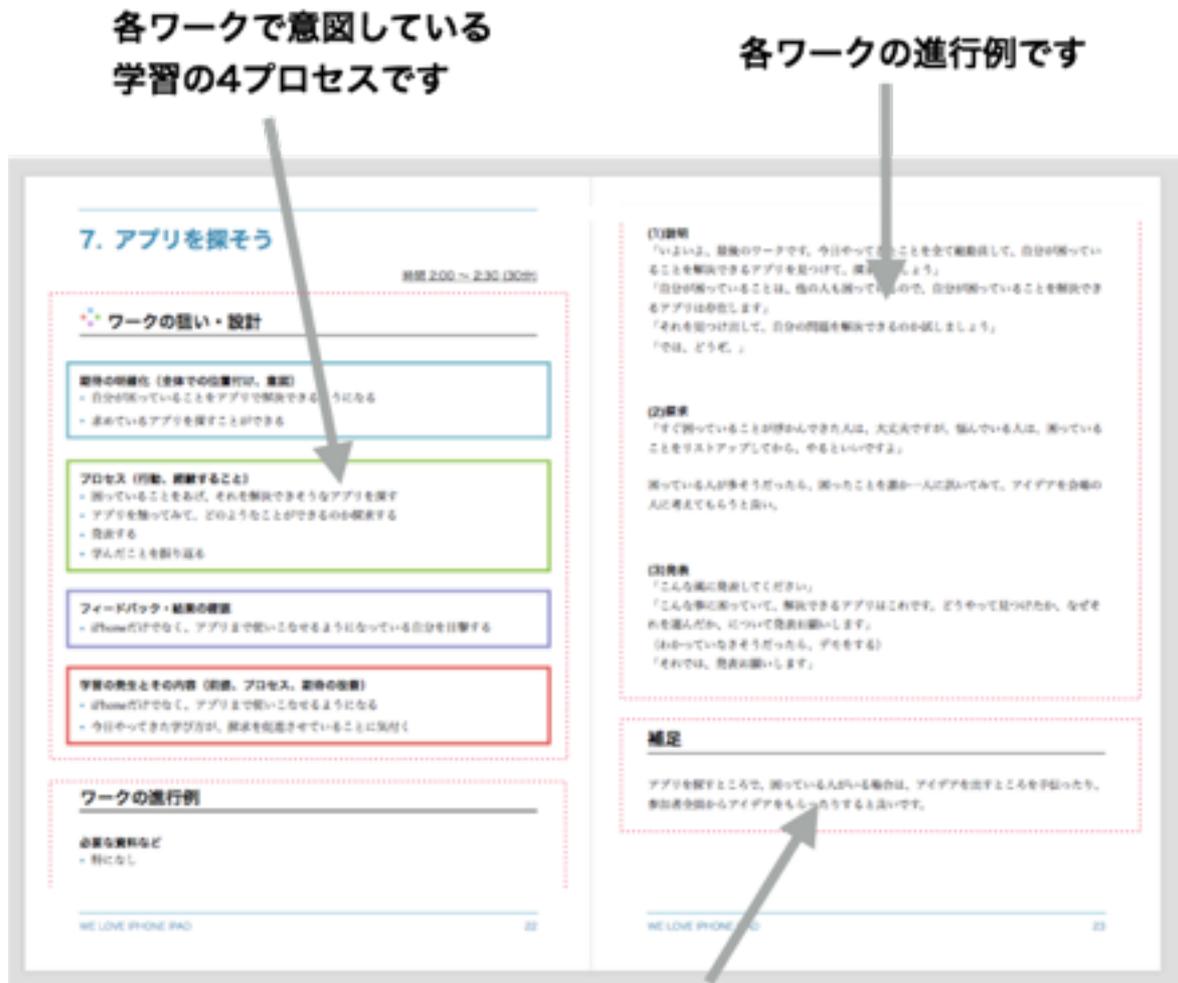


目次

レジュメの使い方	3
教材研究のコツ	4
ワークショップ概要	5
準備するもの	5
1. イントロ	8
2. Good & New	10
3. 学ぶことを好きになる	14
4. 発音チャレンジで学習理論を学ぶ	16
5. 文法をやってみよう	20
6. 提案：歌詞を探求	22
7. 学び方を工夫しよう	24

レジュメの使い方

各ワークには「ワークの狙い・設計」「ワークの進行例」「補足」の3つの項目が書かれています。



ファシリテーションのヒントなどの 補足情報です

- 【ワークの狙い・設計】各ワークで発生させる学習の4プロセスがまとめられています
- 【ワークの進行例】ワーク進行の一例です。そのまま読むのではなく、自分なりにアレンジして進行をしましょう。
- 【補足】ファシリテーションや進行に関するヒントなどの補足情報です。

教材研究のコツ

教材を研究する際、人それぞれ研究しやすい方法があります。自分に合った方法を見つけるには、ある方法を試して、研究しやすかったかどうかを確かめて、改善していく必要があります。

以下はオススの探求方法3ステップです。

1. レジユメを使って講座の流れを知る

レジユメを使って講座を分析します。レジユメの各ワークは、FILM学習サイクルに沿って書かれている部分、進行、補足で構成されています。全体の流れを把握しましょう。

2. 分析する

「期待の明確化」「行動するプロセス」「フィードバック・結果の確認」「期待、プロセス、仮説の修正」のFILM学習サイクルで書かれた部分を読み、講座の分析しましょう。

自分で、4つのプロセスを書いてみたり、マインドマップを描いたりして、どんな風に4つのプロセスが進むか、どんな言葉をかけるか、考えてみましょう。

3. 動画を見て、予想との違いを確認

実際の講座の様子をビデオで見てください。自分が考えた進行のイメージとの違いを感じて、良いと思ったところはレジユメに書き込むなどしましょう。さらに、学習を創造するために、どのようにファシリテーションすれば良いかを考えましょう。

上記のあくまで、探求の方法のひとつです。

試してみて、改善しましょう。

ワークショップ概要

この講座は「日本語」で進行する英語講座です。英語そのものを学ぶのではなく「英語の学び方」を学びます。ゴールは「英語を学ぶこと自体を好きになる」ことの重要性を知り、実際に好きになり始めることです。そのために、いくつかの学習の原則も学びます。

スキル：

自分で学習を改善し続けるためのアイデアを出したり、基礎文法を学ぶことを学びます

姿勢：

100%の能力を発揮できるようにします。学ぶこと自体や、自分の学ぶことに関する注意を払うことを学びます

知識：

学習の原則や、認知言語学的な英文法などを学びます

このワークショップでは、上記のようなスキルを「一気に、同時に」学ぶように設計されています。

準備するもの

※ 以下は例文です。講座に合わせて書き直してください

「参考書を持って来てもらう」

これはいい思ったけど、挫折している英語教材（主に書籍）を持って来てもらう。

「講座資料」

ワークの時々を使う講座資料を必要な数だけ印刷しましょう。音源などのファイルもあるので、気を付けましょう。

「A4の紙、カラーペン、ボールペンなど」

構造を理解するワークで、メモしたり図解したり、発表内容をまとめる際に使うと思うので、余裕を持って用意しておくが良いです。

「マスキングテープ、色紙、パーティグッズなどの小道具」

そんなに必要ではありませんが、板書したり考えたりすることを補助するものがあれば良いです。

「機器について」

チーム数（参加人数 / 4程度）に合わせて、「音を鳴らせる機器」が必要。スマホなどあればOK。

「環境づくり」

パソコンを動かしたり、紙を取り出したり、テーブルの上でものを移動します。この時に起こるのが「コップを倒す」「ものを落とす」などです。特にスマホを落とすと、破れたりすることがあります。可能であれば、飲み物、お菓子をテーブルとは別の場所に置き、自由に取りに行けるように配慮しましょう。飲み物は、パソコンとは別の近くのテーブルにおけるように工夫したり、こぼさないように工夫をしましょう。

「講座の直前に確認しましょう」

各人が、WiFiやインターネットに接続できていることや、利用するアプリ、Webサービスの登録ができていることを確認しましょう。機器トラブルがこらないようにしておくと、スムーズに進行できます。

1. イントロ

時間 0:00 ~ 0:05 (05分)

ワークの狙い・設計

期待の明確化（全体での位置付け、意図）

- 3時間で得られるものにワクワクしてもらう
- 英語を学ぶのではなく、英語の学び方を学んで、英語を学ぶこと自体が好きになる

プロセス（行動、経験すること）

- 大好きなことで、シミュレーションして納得する

フィードバック・結果の確認

- シミュレーション結果を検討することで、納得する

学習の発生とその内容（前提、プロセス、期待の改善）

- さらにメソッドが加われば・・・と想像する

ワークの進行例

必要な資料など

- BGMなど

(1) ウェルカム感をしっかり出す

良い学習の場のために、参加者をしっかりと出迎える。待ってました！という感覚、受け入れられている感覚を作ることが大切。英語の曲などを流すと面白い。

(2) 講座の開始を宣言する

-
- 「今から3時間ちょっと」で、「英語を学ぶ」のではなく、「英語の学び方を学ぶ」とと、「英語を好きなることを学び」ます。
 - 英語は好きですか？英語を学ぶこと自体が好きですか？
 - （人を当てて）「英語以外で、大好きなことってありますか？」「どんなふうに取り組んでいますか？」
 - （相手の言葉を使って、大好きなら「やめろと言われても」学び続けるし、すごいレベルまでいけたりすることがある）
 - 英語が好きになって、メソッドまで組み合わせられれば、すごいレベルに行きます。今日は、その第一歩、強力な第一歩をスタートさせます。

補足

短く、シンプルに期待を高めるように開始を宣言しましょう。ワークショップはスタートが肝心です。長々とファシリテーターが挨拶をしてしまうと参加者が「教えてもらうモード」になってしまい、自分で探求して答えを作り出すのではなく、あなたから答えを教えてもらおうと考えてしまいます。期待を高め、ちょっとワクワクするような講座の全体像を伝える程度にして、すぐに次のワークへ進みましょう。

ポイントは「英語を学ぶ」のではなく「英語の学び方を学ぶ」、「英語を好きになる」と伏線を張ること。

2. Good & New

時間 0:05 ~ 0:40 (35分)

ワークの狙い・設計

期待の明確化（全体での位置付け、意図）

- 緊張をほぐす、学ぶ姿勢を作るワークをするよ
- Good & New だよ

プロセス（行動、経験すること）

- 普通にGood & New をした後、in English を行うことで、様々な気づきを得る
- シンプルにやってみることで、苦手意識を知り、そこから100%Englishして、そのあとに、伝えることにフォーカスして、無意識を使う訓練をする
- コミュニケーションの極意なども学ぶ

フィードバック・結果の確認

- 実際に自分の様子を観察することで、様々なことに気づく

学習の発生とその内容（前提、プロセス、期待の改善）

- 一連のワークを振り返ることで、何を学んだか？を明確にする

ワークの進行例

必要な資料など

- BGMなど

(1)Good & New (in Japanese)

-
- 良い学習状態を作るために、Good & New をしましょう
 - 良くて新しかったことを発表するだけだよと説明
 - 2min 間チームごとに発表をする、ワイワイ楽しい雰囲気を作る
 - 緊張はほぐれたか？を聞いてみる

(2) Good & New in English 1回目

- (素早く、リズムよく説明に入る)
- 「では、Good&NewinEnglishを行いましょう。英語でG&Nをします。もちろん、さっき日本語で話した内容はダメです。よくて新しかったことを話しましょう。時間は2minです。では、どうぞー」

(3) Good & New in English 1回目 振り返り

- 「ぐるぐる回ったか？」 「どんな感じだったか？」 「どんな気持ちだったか？」を2、3人に聞いて、自分の感情の内面に目を向かせる
- 学習の8原則を見てもらう。学習の原則(1)を見て、チームで話し合いをする (5min)
- もう一度、G & New in English をするので、その時にどうするか？を考えてもらう

(4) Good & New in English 2回目

- どのように取り組むか？のアイデアを話してもらう (2,3人)
- G&N in English を行う (4min)

(5) Good & New in English 2回目 振り返り

- 「やって見た結果を振り返ろう」自分の「快適さ」はどうだったか？
- 「周りから評価を受けてみよう」英語がうまくなったか？

(6) コミュニケーションの原則を学ぶ (5min)

- コミュニケーションの原則を読んでもらう
- LFTがデモンストレーションをして、理解させる (片言の日本語デモ)
- 自分の英語にフォーカスするのではなく、伝えることにフォーカスする
- 身振り手振り、絵を描く、日本語使ってもいい、なんとか伝えようと頑張る
- 自分がどう話しているか？なんて、考えない

(7) Good & New in English (3回目) (5min)

- やってみよう(一人1min)
- 英語はうまくなったか？

(8) 学習の原則2について学ぶ

- 学習の原則2について学ぶ
- 簡単に意見交換をして、学んだことを発表してもらう

(9) 学んだことは？

- 「ここまでで、学んだことは何か？」 「学習の原則1,2を踏まえると、どんな学び方のアイデアがあるか？」について意見交換し、発表
- 「それをやって見たい！と思えますか？」
- 「そのアイデアは、有効でしょうか？」 「どうやったらわかるか？」 「やってみるしかない、実験してみる、工夫すること」が必要ですよね
- なぜなら・・・は、このあとやって行きます

補足

。ワークの進行が若干複雑なので、しっかりとイメトレをして臨むこと。

3. 学ぶことを好きになる

時間 0:35 ~ 0:55 (20分)

ワークの狙い・設計

期待の明確化（全体での位置付け、意図）

- 学習の最大の鍵とは何か？に好奇心をもつ（好きになること）

プロセス（行動、経験すること）

- 英語がペラペラになったらシミュレーションをし、具体的なゴールを明確にすることで、行動計画が立てられるようになることを知る

フィードバック・結果の確認

- 実際に行動するか？と言われれば、しない可能性が高いことを認識する
- その原因は、何かを話し合うことから「要するに」学ぶことを好きではない、結果だけが欲しい

学習の発生とその内容（前提、プロセス、期待の改善）

- 必要なことは「学ぶことを好きになる」ことと理解する

ワークの進行例

必要な資料など

- BGMなど

(1)学習の原則3を学ぶ (10min)

- 「日本語並みに、英語がペラペラになったら？」「ちなみに、日本語訛り。逆にして考えると、英語訛りの日本語。あまりにもペラペラすぎると笑えちゃうし、間違うと日本語下手と思われる」「知的な感じがする英語、ペラペラ」

-
- 「それぐらい、英語がペラペラになったら、具体的に何をしたいか？」 「英語はあくまでも手段だ。どうしたいか？何をしたいか？ワクワクすること、やりたいことを考えてください」 「例えば、僕だったら・・・」と例を出す
 - 「さらに、では、そのような状態になるには、どんな勉強が必要だろうか？どうすれば、なると思うか？を考えてみよう」 「さらには、なぜ、そのプロセスでいいか？を書き込んでみよう」
 - (2minで考えてもらう。学習の原則3のシートを使う)
 - チーム内で発表する
 - 全体でシェアする
 - 学習の原則3を解説する

(2) 苦手意識や、過去の挫折、失敗を怖がる心理を明らかにする (10min)

- 「そのアイデアを実際に行動して見たら、どうなると思いますか？」 「話し合ってみましょう」 「どうなるか？なぜ、そう思うか？を話して見ましょう。」
- 適宜、2、3人から全体にシェアをする
- (補足するなら、「それって、ものすごく遠いゴールで2weekとかでは達成しなくないですか？)

- 「例えば、飲んだら一発でペラペラになる薬・カプセルがあったら？でも、副作用がある。2週間下痢で苦しむ。どうします？飲みますか？」 「飲みますよね」 「要するに結果だけ欲しい。間はすつとばしたい！と思っている」
- 「じゃあ、大好きなことだったら、同じようになるでしょうか？どなたか・・・ (誰かを当てる)」 「好きなことは？」 「もし、一発で上達する薬があったら？飲みますか？」 「飲んだら終わり、楽しくない、タスクになる」
- 「つまり？？？大切なことはなんでしょうか？」
- 原則4です

補足

このワークは基本的に話し合いです。20minで説明を交えながら、どんどん進みましょう。

4. 発音チャレンジで学習理論を学ぶ

時間 0:55 ~ 1:30 (35分)

ワークの狙い・設計

期待の明確化（全体での位置付け、意図）

- 短期間で発音、フレーズがうまくなる一つの方法を試そう
- でも、いろんな方法がある。あなたにぴったりのものがあると思う
- でも「学習理論」という観点で、学ぶことがあるので、試して見てね

プロセス（行動、経験すること）

- 3回、探求を繰り返し、振り返ることで学び方を工夫するようになる

フィードバック・結果の確認

- 最終的に、学べた自分を発見する。楽しんでいる自分を発見する

学習の発生とその内容（前提、プロセス、期待の改善）

- 学習の原則5、6、そして4で振り返る

ワークの進行例

必要な資料など

- BGMなど

(1)説明

TEDのスピーチ&スクリプトを用意した。ワンフレーズをめっちゃうまくなることにチャレンジして見ましょう。好きなものでOKです。全部やらなくてもいいし、途中の1フ

レーズでもOK。チームで、どれにするか？(1 or 2) どちらへんをするか？を決めてください。

(2)探求1回目 (6min)

- 「そっくり！を目指してください。うわー、うま（そこだけ）と言われるぐらいを目指しましょう。他はできなくてもOKです」
- チームでやり方を工夫して、考えて見ましょう

(3) 探求1回目振り返り(4min)

- 「探求の仕方自体を振り返って見ましょう。どんな探求の仕方をしていたか？もっと良い探求の仕方はないか？を話し合いましょう」(3min)
- 全体にシェア(1min)

(4) 探求2回目(8min)

- 学習の原則5,6を見るように指示する。アイデアを出させる。
- 探求する、工夫を色々しましょう！と伝える

(5)探求2回目 振り返り (3min)

- 探求について、よかった点、改善点、次やるなら、予期せぬこと
- これはいいぞ！と思ったことを全体にシェア

(6) 探求3回目 (6min)

- ブリーフィングしてから、探求を開始しましょう

(7) 探求3回目振り返り

- 自己評価で、どれぐらいうまくなったか？
- どんなメソッドを考えついたか？
- その効果は？

(8) まとめ

- 特定のメソッドを使う場合でも、学び方を工夫しながら、学ばないと身につかない

-
- 学び方を工夫して、実験して、お、こうした方が成長するなどを探求していると、楽しくなるよね？

補足

3回探求と振り返りがあります。時間のコントロールが難しいので、しっかりシュミレーションをしておきましょう。

休憩 10min

5. 文法をやってみよう

時間 1:40 ~ 2:10 (40分)

ワークの狙い・設計

期待の明確化（全体での位置付け、意図）

- 認知言語学的アプローチをやってみよう。新しい文法をやってみよう
- 大人は文法も、うまく取り入れると良いと考えているよ

プロセス（行動、経験すること）

- デモンストレーションすることで、楽しく学ぶ
- Map理論をやって、振り返る

フィードバック・結果の確認

- 答えのない記事を読んで???となり、原因を考えて、対策を考える

学習の発生とその内容（前提、プロセス、期待の改善）

- 英語学習の問題点をはっきりさせる

ワークの進行例

必要な資料など

- BGMなど

(1) 認知言語学的アプローチ (5min)

- 翻訳しない、そのまま「どういう意味？」を取り込むトレーニングをする
- MAP理論として説明をする
- 図にしながら、説明する。図にして考えることをやって見る

-
- 探求して、面白い！と感じてみよう

(2) TEDトークのスク립トでやってみよう！ (7min)

- 単語は都度で検索してみよう。イメージにとにかくしてみよう、イメージから「要するに」を考えてみよう
- ワイワイ探求してみよう、他の英語文章でもOKです

(3) シェア (8min)

- どんな感じになったか？発表する
- 文章と構造と意味理解

(4) 対訳のない本を読む (15min)

- 対訳のない英文読解をやって見る (10min)
 - 着地点が見つからないで、苦しい・・・
 - なんだか、途方も無い・・・
- 振り返る (5min)
 - どんな感じか？今の状態を分析する
 - 何が原因だろうか？を分析する
 - 発表してもらおう
- 原因の解説（英語力に問題があるのか、内容が難しいのか判定できない）

(5) 学習の原則7, 8

- 解説する

補足

学習の原則は、十分に理解しているだろうから、説明するだけでいいだろう。

6. 提案：歌詞を探求

時間 2:10 ~ 2:40 (30分)

ワークの狙い・設計

期待の明確化（全体での位置付け、意図）

- 歌詞を使うのは、ちょうど良いチャレンジになりやすい

プロセス（行動、経験すること）

- 歌詞を読んで見て、みんなで「歌詞が伝えようとしていること」を考えてみよう
- ワイワイ盛り上がり、どんな曲か？を想像して見るのもいい

フィードバック・結果の確認

- 実際に発表し合う

学習の発生とその内容（前提、プロセス、期待の改善）

- どんな学習の原則が入っているだろうか？

ワークの進行例

必要な資料など

- BGMなど

(1)説明

歌詞を使うとやりやすい。やってみよう！自分たちで音楽の歌詞を出せそうなら、それでもOK。iTunesとかで買ったものなら、出てくるはず。洋楽の大好きな歌の歌詞などを探求してみよう。やることは「認知言語学的」アプローチでやって見て、どんな歌詞なんだ、何を伝えたいんだ？と探求すること。これを後で説明してもらうよ。

(2) 探求

わからない単語などは、その場でどんどん調べさせよう。正解と自信がなくても、多分、こういう意味じゃ無いか？と考えればOK。独自解釈がある程度、できるはずだから

(3) 発表

それぞれ、歌詞の構造と解釈を発表する

(4) 学んだこと

内容がわからないときは、日本語でもあるよね。要するに何が伝えたいか？を推測するしかない。それを英語を使ってやっているだけ。混乱しているように見えて、普通だよ。

補足

7. 学び方を工夫しよう

時間 2:40 ~ 2:55 (15分)

ワークの狙い・設計

期待の明確化（全体での位置付け、意図）

- 継続、メソッドの改良、緊急性、学習が引き起こる、好きを実現する必要がある
- FILMシートを使えば、解決するかも

プロセス（行動、経験すること）

- 1 month チャレンジの説明
- FILMシートで、1weekチャレンジのアイデアを考えてもらう

フィードバック・結果の確認

- 発表会

学習の発生とその内容（前提、プロセス、期待の改善）

- 振り返ることで、解決策が生まれるはず！

ワークの進行例

必要な資料など

- BGMなど

(1)説明

- 継続がすごく必要、メソッドの改良も必要、緊急性、ワクワクする具体的な目標も必要、そして「好きになる」が必要

-
- どうしたらいいか？FILMシートを使う。期待する結果に強制的に「英語を学ぶこと自体が、大好きになる」とかき入れる。それから、他の目標なども書き入れる
 - どんなのを書いたらいいか？をお互い相談、アイデアを出しながら考えよう
 - 1 monthチャレンジをするよ。毎週FILMシートで振り返り、1ヶ月英語の勉強を続けてみよう。なので、1monthを書いて、1weekだけを書こう

(2) 発表

(3) まとめ

- 今日学んだことは？
- 英語を学ぶことを好きになった？

補足

ワークショップの最後なので、すんなりと書いてくれるとは思いますが、FILMシートを知らない参加者がいる場合は、説明を求められるかもしれません。その場合は、簡単にFILMシートがどういうものかを伝えても良いです。実際に書いてみるとどういうことなのかわかってくるので、行動を促して、書いてもらうようにしましょう。様子を見て回りながら、例を出したりすることで、アイデアを出す手助けをしましょう。